

子どもの最善の利益のもとに

子ども家庭政策を実現させる緊急アピール

今を生きるすべての子どもは命を守られ、その生存と発達の権利を享受される主体です。さらに地域社会や家庭生活を基盤として豊かな「子育て文化」を次世代にしっかりと伝えていかなければなりません。しかしながら、わが国は「子育てがしづらい社会」になってきています。「子育てに自信がない・不安がある」といつ保護者（親）の悩みや負担感、さらには児童虐待や家庭内暴力などの社会問題が増え続けています。

人間の基本的な楽しみである子育ては、本来子どもの成長に親が豊かさを感じていくものです。今こそ子どもは社会の宝として、子育て子育てを社会全体で支えていく」といつ国民の意識改革のもとに、人間の尊厳と生きる権利を保障する総合的な国の少子化・次世代育成施策の実現を喫緊の重要政策として確立させていくことが必要です。

私たち児童福祉関係者は、今日的な子ども家庭福祉への要請をつけとめ、自らの社会的な使命と責任を再確認するとともに、わが国の未来を担う子どもたちのために、子ども家庭政策の確立と財源投入の実現を強く要求し、ここに国と社会に向け提言を行うものです。

一 未来を担う子どもを豊かに育むための包括的な子ども家庭政策の確立は必要不可欠です

包括的・継続的な子ども家庭政策は、子どもの権利の保障と子ども最善の利益を実現するものでなければなりません。少子化は「日本の将来の危機」との認識のもとに、国の責任をもって子ども家庭政策を確立させ、大幅な財源投入をはかるべきです。さらに、子育て家庭の生活と働きの調和を実現するための社会システムを確立すべきです。

一 すべての子どもを対象とする保育・子育て支援の質的・量的な基盤整備が必要不可欠です

家庭は子どもの育みと発達の場です。保護者（親）がその責任をはたすために必要とされる公的な保育と子育て支援策をすべての子どもを対象に利用できるように保障するべきです。そのためには、国が大幅な財源投入をはかり、国の福祉施設最低基準を引き上げて質の確保と量の拡大を図る基盤整備を緊急にはかるべきです。また、最低基準はナショナルミニマムとして福祉の根幹をなすものであり、最低基準廃止または地方自治体の条例に委任することは断固反対します。

一、子どもの命を守り育むための社会的養護体制の抜本的な整備が必要不可欠です

顕在化する子ども虐待や家庭内暴力、子どもの貧困化など厳しい社会問題に対しての人権擁護とセーフティーネットを確立させることが急務です。とくに厳しい状況にある子どもたちをうけとめ育む児童福祉施設等社会的養護体制は、養育の質や専門機能の向上のための職員配置基準などの拡充が急務な課題です。緊急かつ抜本的な整備、改善をはかるべし。

一、国民の理解のもとに、子ども家庭施策への財源投入が必要不可欠です

国は、子ども家庭施策の理念とその将来像を明らかにするメッセージを国民に伝え、その社会資源の基盤整備のために財源確保をはかり、公的資金を投入するべきです。

平成二十一年十一月五日

子どもを守り育む全国フォーラム

社会福祉法人 全国社会福祉協議会